学校いじめ防止基本方針

札幌市立中の島中学校

(令和6年4月)

はじめに

いじめを肯定する人は誰もいません。しかし、社会全体や学校において「いじめ」が無くならないのが実情です。一人一人はいじめを許さないと思っても、その場の雰囲気、相手に対する対応、集団の力により「いじめ」が起こることがあります。したがって、いじめは、どの子どもにもどの学校でも起こり得るものと言っても過言ではありません。大切なのは、いじめは、相手の人間性とその尊厳を踏みにじる「人権侵害行為」であり、行為の大小や、意図のあるなしに関わらず、心理的・物理的に相手に影響を与え、苦痛を感じさせる行為は、全ていじめにあたるという認識をもつことだと思います。

本校では、いじめ防止に向け、学校いじめ対策組織で情報を共有し、チーム学校としていじめの未然防止・早期発見・対処に努める所存です。合わせて、学校・家庭・地域総ぐるみで、いじめは、「しない・させない・許さない」を徹底していきたいと考えています。

1. いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

*いじめ防止対策推進法 第2条第1項

2. 札幌市のいじめ防止基本方針に伴う学校が実施する取組

- ① 学校いじめ防止基本方針の見直し
- ② 学校いじめ対策組織の設置
- ③ いじめ未然防止に係る取組
- ④ いじめの早期発見
- ⑤ 家庭や地域との連携
- ⑥ いじめへの対処
- ⑦ いじめの見逃し、抱え込みを防ぐ取組
- ⑧ 情報の記録や引継ぎ

3. 具体的ないじめの態様

- ・冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- ・仲間はずれ、集団による無視
- ・軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- ・ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする
- ・金品をたかられる
- ・金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする
- ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- ・パソコンや携帯電話、スマートフォン等で、誹謗中傷や嫌なことをされる

※国の「いじめ防止等のための基本的な方針」より

4. いじめの解消の判断

いじめが解消している状態とは、少なくとも次の二つの要件が満たされている必要がある。

- ① 被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）がやんでいる状態が、少なくとも3ヶ月以上継続していること。
- ② 被害生徒が、いじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められること。被害生徒本人及び保護者に対し、心身の苦痛を感じていないかどうかを面談等により確認する。

以上の結果を踏まえて、いじめ防止委員会で行う。

5. 未然防止のための取組

- ① 優しさや思いやりのある集団の育成
 - ・諸活動や道徳教育を通して規範意識を醸成し、ともに助け合い支え合う豊かな心の育成を支援する。
- ② 自己肯定感・自己有用感の育み
 - ・授業を充実させ、諸活動に意欲的に取り組ませるなど、充実した学校生活を送るよう支援する。
- ③ 生徒主体の活動の支援
 - ・生徒会活動などを通じて、生徒がいじめ防止のために自主的に取り組む姿勢を育てる。
- ④ 教職員の研修
 - ・ゲートキーパーとしての基礎的素養を身につける。
 - ・研修等を通し、教職員の対応力の向上を図る。
- ⑤ 家庭や地域との連携
 - ・個人懇談等を通し、学校、家庭での様子等の情報交換を行う。
 - ・学年懇談会等を通し、学校いじめ防止基本方針の周知やいじめ防止に向けた話題を提供する。
 - ・学年PTA集会などを通して、情報モラルについての保護者の役割を認識してもらう。
- ⑥ 命を大切にす指導
 - ・道徳の授業や人権・いじめ・自殺予防教室、生活安全教室を通して、命の大切さを学ぶ。

6. 早期発見のための取組

- ① 正確な生徒理解
 - ・教職員が生徒とのふれあいや観察を通して生徒の状況を把握し、必要な支援を行う。
 - ・いじめに係わるアンケートを実施し、実態を把握する。（教育相談アンケート2回、市教委いじめアンケート1回）
 - ・家庭や地域と連携し、情報提供等の協力を依頼する。
- ② 相談活動の充実
 - ・いじめに係わるアンケート実施後は教育相談活動を行い、一人一人の生徒の状況を把握し、支援に当たる。（年4回の教育相談の実施…2回は担任、2回は全教職員を対象に相談）
 - ・複数の目でアンケートを確認し、本人と丁寧に面談する。

7. 早期対応、解決、再発防止のための取組

- ① 事態を深刻化させないために、正確な事実確認及び迅速な情報共有と組織的な対応で早期解決を目指す。
- ② 「いじめ見逃しゼロ」を徹底するために、認知及び解消については学級担任など個人に委ねず、いじめ防止委員会で判断することを徹底する。
- ③ いじめの被害者である生徒やいじめを知らせに来た子どもの安全確保のための見守りや心のケアに努める。
- ④ いじめの対応にあたっては、初期段階から組織（「いじめ防止委員会」）で対応し、複数の目で解決に当たり、再発を防止する。
- ⑤ SC（スクールカウンセラー）、SSW（スクールソーシャルワーカー）等の専門家や教育委員会、警察、医療等の関係機関との連携を図る。

8.いじめ防止対策の年間計画

	月	いじめ防止委員会(毎月)・その他全職員での取組	学校全体での取り組み
前期	4月	・学校いじめ防止基本方針の見直し(毎年) ・教員研修	・学校いじめ防止基本方針の周知 (生徒:学活、保護者:学年懇談会、HP)
	5月		
	6月	・教育相談アンケートの集計、分析、情報共有、対応	・教育相談アンケート+教育相談週間 ・人権・いじめ防止教室(1、2年)、生活安全教室(1年) ・人権・いじめ防止教室(3年)、生活安全教室(2、3年)
	7月		・教育相談日 ・個人懇談
	8月		・教員研修
	9月	・いじめ防止委員会前期反省	
後期	10月	・教育相談アンケートの集計、分析、情報共有、対応 ・悩みやいじめに関するアンケートの集計、分析、情報共有、対応	・自殺予防教室(各学年)
	11月		・教育相談アンケート+教育相談週間 ・悩みやいじめに関するアンケート+面談
	12月		・個人懇談
	1月		
	2月	・いじめ防止委員会年度末反省	・教育相談日 ・第2回学校評価アンケート(生徒、保護者、教職員) ・学校評議委員会
	3月		
通年		・定例会いじめ防止委員会(毎月) ・教員研修(適宜) ・生徒情報共有(学年打ち合わせ、職員会議等)	

9.「いじめ防止委員会」の設置

校長、教頭、生徒支援部長、各学年主任、特別支援学級主任、養護教諭、SC、SSWで構成し、月1回の定例会議を開催する。また、いじめの疑いを把握した場合は、構成員全員がそろわない場合でも速やかに会議を開催する。

10.いじめ防止委員会の取組

- ・いじめの認知及び解消について、学級担任などの個人に委ねず、組織で判断することを徹底する。
- ・いじめの認知や解消と認知した個別の対応状況を確認する。
- ・いじめの解消の目安である3ヶ月に至るまでの間、教職員による見守りを実施するとともに、被害生徒及び保護者との面談を通じて、心身に苦痛を感じていないかを継続的に確認する。加害生徒の保護者に対しても、学校における状況等を共有し、保護者と連携して指導と見守りを行う。
- ・いじめに係わるアンケート実施後に、アンケート結果や面談等の内容について検討する。
- ・個別の対応状況の記録を蓄積する。
- ・いじめの事実を確認した場合、教育委員会への報告をする。重大事態発生時の対応については、教育委員会に指導・助言を求めて、学校として組織的に対応する。

11. 組織的ないじめ対応の流れ

<p>いじめ情報の把握 ↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報は学年と生徒支援部を中心に学校全体で共有する。 ・被害者の安全確保やケアを速やかに行う。
<p>正確な事実確認 ↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、保護者の話を十分に聞き、事実や要望を確認する。 ・情報提供者や周囲の生徒、関係生徒から速やかに聞き取り、記録を蓄積する。
<p>チーム作り 指導方針の決定 保護者との連携 ↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止委員会を招集して情報共有および指導・支援の方針を決定し、全教職員に共通理解を図る。 ・教育委員会、関係機関との連携を図る。 ・犯罪行為にあたりと認められるものについては、早期に警察と連携した対応を取る。 ・事案に応じて、法的に適切に対応する観点からスクールロイヤーの活用も検討する。
<p>生徒への指導・支援 保護者との連携 関係機関との連携 ↓</p>	<p>①被害生徒へのケア ②加害生徒への指導・支援 ③周囲の生徒への指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と学校が協力して生徒を支援する。 ・関係機関と連携し、生徒および保護者を支援する。
<p>いじめの解消 再発防止 保護者との連携 ↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止委員会によるいじめの解消の判断 ・見守りを継続する。（被害者、加害者、周囲の生徒）
<p>振り返りと修正</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止委員会で、指導・支援を振り返る ・指導・支援体制に修正を加える。 ・状況に合わせ、被害の子どもと保護者の了承を得て、再発防止のための学級指導、学年指導を行う。 ・同様のいじめが発生しないように、認め合う人間関係の集団作りを進める。

12. 重大事態の判断及び重大事態発生時の調査

「重大事態の判断」

- ・いじめにより生徒の生命、心身または財産に重大な被害が生じた疑いを認められるとき。
 - ・いじめにより生徒が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあるとき。
 - ・いじめの早期解決に向けて、当該生徒及び保護者の理解・協力が得られないとき。
- ※学校が重大事態かどうか判断に迷う場合は、速やかに教育委員会等と連携して判断する。

「重大事態発生時の調査」

- ・いじめ防止対策委員会を中心に適切な人員と方法により当該の重大事態に関する事実関係を明確にするための調査を行う。
- ・いじめを受けた生徒とその保護者に、調査に関する事態の事実関係、その他の必要な情報を適切に提供する。

13. 緊急時の対応について

- ・緊急性が高いと判断した事案や、いじめの重大事態につながる事が懸念される事案については、速やかに教育委員会に報告する。
- ・教育委員会は、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー、スクールセーフティアドバイザーなどの活用も含めて、学校と連携して対応に当たる。